

文人や政治家、外国人が愛した湘南 保養地・別荘地として発展した鎌倉・大磯・箱根

写真協力 鎌倉市 葉山町 大磯町 箱根町



旧華頂宮邸は昭和4(1929)年に華頂博信侯爵邸として建てられた。鎌倉日本遺産の構成文化財の一つで「日本の歴史公園100選」にも選定。

数多くの文人が暮らした街

明治時代に入ると、皇族や華族、政財界の富裕層が鎌倉・湘南地域に洋風、和風の別荘を建てるようになる。関東大震災後、新たに別荘開発され、利便性を増した鎌倉山は、高級別荘地としてその名を全国にとどろかせた。

在目にすることのできるほとんどが昭和初期のものである。

木造3階建て、銅板葺きの屋根が特徴的な洋館、旧華頂宮邸は昭和4(1929)年の建築だ。国の登録有形文化財に指定され、フランス式庭園のほか、通常非公開の建物内部も、春と秋の年2回、日を限って公開されている。

やがて、高浜虚子、久米正雄、芥川龍之介や川端康成といった文化人たちが鎌倉の雰囲気惹かれ居を構えるようになる。その多くは老朽化や所有者の代替わりで取り壊されてしまったが、一部の建物はいまでも個人宅として使われている。鎌倉ペン



芥川龍之介は横須賀の海軍機関学校で英語を学んでいた頃、由比が浜に下宿し、1年ほど元八幡近くの借家で新婚生活を送っている。この頃は「地獄変」や「蜘蛛の糸」などを発表した充実期だった。国立国会図書館蔵



東京丸の内にあった旧三菱銀行本店や丸の内ビルディング旧館などの設計を行った桜井小太郎が15年の歳月を費やして大正5(1916)年に完成させた吉我邸。現在はレストラン、結婚式場、カフェとして利用されている。

いまもいきづく古き良き鎌倉の別荘文化

鎌倉山のつづら折りの道をゆくと緑に包まれた山門が見える。鎌倉西御門にあった高松寺から移築された稲荷亭の入口である。現在は飲食店として営業しているこの建物は、養蚕で財を成した農家の屋敷を移築したもの。広大な庭に建つ茶室や羅漢像などが所有者の趣味を偲ぼせる。

明治、大正時代に建てられた別荘の多くは関東大震災で失われた。現

クラブ会長を務めた作家・里見弴が自ら建築に関わった旧里見弴邸や吉屋信子記念館のように条件付きで公開されているところもある。

そうした「鎌倉文士」の活動を学び知ることができなのが、長谷の丘に建つ鎌倉文学館である。昭和11(1936)年竣工の前田侯爵家別邸だった建物で、一部鉄筋コンクリートの木造3階建ては、屋根に葺かれた青いスペインシユ瓦や随所に施されたアール・デコの意匠が美しい。頼朝が築いた中世の武家の街をベースに古き良き時代を醸す建物が残る鎌倉はまさにモザイク模様で訪れる人々を魅了する。

鎌倉ゆかりの文学者の直筆原稿や愛用品などの資料を収集保存し、展示する鎌倉文学館。600㎡近いバラ園も有するなど建物も庭も美しい博物館。3階は非公開(写真提供:鎌倉文学館)

SPECIALTY

名物



鎌倉ハム

明治初期、英国人のウィリアム・カーチスによって初めて日本人にハムの製法が伝えられたところが旧神奈川県鎌倉郡であったことから「鎌倉ハム」という名前が。カーチスが日本を去った後も、ハムの製造者・技術者はしっかりと育ち、その伝統と品質は現代にも受け継がれている。「かながわの名産100選」の一つ。



鎌倉文学館本館からは、湘南の海が望める。本館前には芝地が広がり、樹齢200年を超えるオオムラサキツツジやスダジイの巨木も見ることができる。



大正15(1926)年に作家里見弴が自ら設計に関わり暮らした家。建築家ライトの意匠を取り入れた。印象的な外観を持つ建物。非公開だが、イベント企画や貸しスペースとして利用されている。

SPOT

立ち寄り所



葉山しおさい博物館

葉山御用邸付属邸跡地にできたしおさい公園内に建つ博物館。入口は御車寄せを移築したもの。葉山周辺の海に生息する魚類や貝類などに関する展示のほか昭和天皇のコレクションも。無料だが公園の入園料(一般300円)が必要【住所】葉山町一色2123-1【電話】046-876-1155【開館】8:30〜17:00、月曜休館



作家吉屋信子の元住居が鎌倉市に寄贈され記念館となった吉屋信子記念館。現在は市民の学習施設として多くの人々に利用されている。



稲荷亭は鎌倉の別荘地、鎌倉山が開発された当時の歴史をいまに伝える貴重な場所。昭和44(1969)年から和風レストランとして営業(写真提供:稲荷亭)



かつては三井財閥本家の別荘地であった神奈川県立大磯城山公園。展望台からは絶景が楽しめ、天気によければ相模湾の向こうに富士山を望むこともできる。



吉田茂が暮らした邸宅を復元した旧吉田茂邸。昭和22（1947）年頃に建てられた応接間と、昭和30年代（吉田五十八が設計した新館をメイン）に再建。



大正元（1912）年、貿易商の別荘として建てられた大磯迎賓館（旧木下家別邸）。国産材が使われた国内最古のツーパイフォー建築。現在はレストラン。



伊藤博文は大磯の温暖な気候が気に入り、明治30（1897）年には本荘も移している。大磯駅も松本順が伊藤博文に相談したことで誕生したといわれる。（国立国会図書館蔵）

8人の歴代首相が 居を構えた 別荘地・大磯



300年以上の歴史を有する、日本三大俳諧道場の一つの鴨立庵。80以上もの石造物が安置され、芭蕉句碑や歴代庵主の句碑も見物できる。



「湘南の丘陵と海」をテーマに、展示・教育普及などの活動を行う大磯町郷土資料館。考古、歴史、民俗、自然の4分野を中心に調査研究を進めている。



明治になり移り変わる世の中の様子を描いた開化絵。小国政作「大磯海水浴 富士湯景図」では水着を着て海水浴を楽しむ女性たちが描かれている（国立国会図書館蔵）

S P O T

立ち寄り所 **大磯市**

毎月第3日曜日に大磯港で開かれる県下最大級の朝市。クラフトやフードなど190店舗ほどが出店。夏場は夜市に。同時に大磯港魚市場ではさかなの朝市（7月は第2日曜日）も開催。獲れたての新鮮な魚が並ぶ。大磯港までは大磯駅から徒歩約15分【営業】9:00~14:00（7~9月は17:00~20:30）<https://www.oisoichi.info/>



大磯には趣の異なる三つの海岸（北浜海岸、照ヶ崎海岸、こゆるぎの浜）が。写真のこゆるぎ浜は万葉集や古今和歌集などでも詠まれた海岸。政財界の重鎮たちが居を構えたエリアにある。

日本初の海水浴場が 開設された美しい浜

県南中央部、相模湾に臨む大磯町は、背後の丘陵地帯に守られ、冬は暖かく夏は涼しい。過ごしやすいつい候とともに美しい砂浜を有したことから、明治18（1885）年、陸軍軍医総監を務めた松本順が日本で初めて海水浴場を開設した。以後、大磯は政財界の人々がこぞって別荘を建てる人気保養地となった。

初代内閣総理大臣・伊藤博文も大磯を深く愛した一人である。

伊藤は小田原に別荘を持っていたが、道中目にした大磯の景色に魅了され、病氣療養中の夫人のために、小田原の別荘と同じ名称の滄浪閣を建てた。

やがて住所も移してこの地に暮らした伊藤は気さくな人柄だったとことで、軽装で出かけては地元の人々とのふれあいを楽しんだという。伊藤以外にも大磯には、山県有朋や大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、原敬、加藤高明、吉田茂といった、合計で8人も首相経験者が居を構えている。明治・大正・昭和にわ

たり政界の奥座敷ともいふべき様相で、そのような大磯に政財界の要人たちも競って別荘を建てた。

室町時代に小磯城があった東海道を下ろす丘陵地帯は、三菱財閥をつくった岩崎家の別荘があったところである。昭和26（1951）年に国宝指定された織田有楽齋の茶室「如庵」も一時期この地に移設されていた（現在は愛知県犬山市）。

当時の建物は、昭和16（1941）年に建てられた北蔵を残して散逸してしまったが、土地の一部は神奈川県立大磯城山公園として整備され、太平洋に臨む広大な景観が楽しめる人気スポットとなっている。

城山公園の南側を抜ける東海道を挟んで向かい合う位置に建つのが旧吉田邸だ。明治17（1884）年に養父・吉田健三が建てた別荘を引き継いだ吉田が晩年まで過ごした屋敷である。平成21（2009）年に火災により失われてしまったがその後再建され、庭園とあわせて公開されている。吉田をモチーフにしたユニークなオブジェも設置されているので併せてチェックしたい。

近代的ホテルもできた 日本初の高原リゾート

横浜居留地の外国人数は明治10年代には数千人に上った。外国人の遊歩区域は居留地から最大10里四方と定められていたが、温泉に行くといえば許可されたという。

多くの外国人が箱根を訪れるようになり、米国帰りの実業家・山口仙之助は明治11(1878)年に宮ノ下に富士屋ホテルを開業する。

山口とも親交があったドイツ人医師ベルツもしばしば箱根を訪れ、温泉の医学的活用に着目した。自身も箱根・木質温泉に別荘を所有し、病弱であった皇太子のための保養を進言。明治19(1886)年に芦ノ湖畔に箱根離宮が完成した。

旅館を営んでいた10代目福住九蔵(正元)は、交通整備の必要性を説く福沢諭吉のすすめを受け、馬車や人力車も通れる道を完成させた。さらに私費を投じて地元有志と国府津・湯本間に馬車鉄道(現在の箱根登山鉄道)を明治21(1888)年に開通させ、以後、箱根は日本初の高原避暑地として発展する。



芦ノ湖越しに望む富士山は箱根を代表する景観。スコットランド北部に似ていると称した外国人もいたというが、彼らは芦ノ湖でボート遊びをしたり、周辺をハイキングしたりして楽しんだ。次第に日本人実業家たちも避暑に訪れ、別荘を建てていく。

西洋人たちが 避暑に訪れた 高原の箱根



ベルツ(左から3人目)は明治9(1876)年に東京医学校(現・東京大学医学部)の教師として招かれ、日本の医学発展に貢献。ドイツ式クアハウスも政府に進言したが実現しなかった(放送大学附属図書館蔵)



箱根離宮の跡地につくられた県立恩賜箱根公園。その中ほどに建つ湖畔展望館はかつての離宮を思わせる外観。展示されている箱根離宮の資料が古きよき時代を物語る。2階のバルコニーからは芦ノ湖やその先の富士が望め、ひととき優雅な気分になれる。

江戸時代の温泉は長期滞在の湯治が主だったが、箱根の温泉は「夜湯(よと)として客を呼び、気軽な温泉利用を促進した。広重作「箱根七湯図会 宮の下」(国立国会図書館蔵)



箱根宿にあった宿はふや(箱根ホテルの前身)の前で「チェア」と呼ばれる駕籠に乗る女性(放送大学附属図書館蔵)



SPECIALTY

名物



芦ノ湖のわかさぎ

芦ノ湖のわかさぎは天正7(1918)年に露ヶ浦から種卵を移植したことに始まる。以来、100年近い歴史を持ち、毎年10月1日の刺網漁解禁日には宮内庁にも献上されるほど上質。平成21(2009)年には箱根の町の魚に指定され、地元レストランや食堂の料理として人気。「かながわの名産100選」に選ばれている。



文化財の 建物を持つ宿が 12軒ある神奈川

東海道が通り、早くから観光地として発展してきた神奈川県は登録有形文化財の建物を持つ宿も多い。その数は全国有数の12軒で、そのうち箱根がもっとも多く8軒が存在する。

塔ノ沢の「萬翠楼 福住」は寛永2(1625)年に開業した老舗で広重も逗留した由緒ある宿だ。敷地内に建つ萬翠楼と金泉楼は明治初期の木骨石造建築の技法を伝える遺構として、国の重要文化財に指定されている。



富士屋ホテル花御殿(1936年築)には国内初という屋内温泉プールも。いまでも現役(国立国会図書館蔵)



広重作「箱根七湯図会 塔の澤」。広重は箱根に来遊している(国立国会図書館蔵)

「富士屋ホテル」はヘレン・ケラーやチャップリンなど、海外の著名人も多数投宿した箱根のシンボリックな宿。隣接する菊華荘は明治28(1895)年に御用邸として建てられたもので、本館を含めた五つの建築物が登録有形文化財である。

箱根では「吉池旅館」や「箱根湯本ホテル」、「元湯 環翠楼」や「福住楼」、「塔の沢一の湯本館」や「箱根太陽山荘」も登録有形文化財の建物を持つ。

また、湯河原町の「上野屋」や鎌倉市由比が浜の「かいひん荘鎌倉」、藤沢市江の島の「岩本楼」や茅ヶ崎市の「茅ヶ崎館」なども貴重な文化財の建造物を保有する歴史ある宿である。

北斎が描いた相州と武州
 神奈川観光を楽しむ双六

鎌倉 江ノ嶋 大山

新板往来雙六

かまくら えのしま おおやま しんばんおうらいすごろう

県内各所に伝わる風光明媚な場所や歴史的スポット。江戸時代の浮世絵師、葛飾北斎も注目していたようだ。

生涯に3万点ほど描いたというが、美人画や役者絵、春画などとともに数多くの風景画を描いている。なかでも有名なものが「富嶽三十六景」。富士山を様々な角度から描いた揃物である。

そのロケ地は現在の1都7県（東京、神奈川、静岡、山梨、愛知、長野、千葉、茨城）

に及ぶ。もっとも多いのが東京で、18カ所で描かれた。続いて多いのが神奈川の7点。海上から写した有名な「神奈川沖浪裏」も含めてだが、場所が比定できるものでは静岡（6点）や山梨（6点）が多い。

刊行されたのは、天保2（1831）年から同4年頃で、当時、富士講などで富士山登拝が人気だった。江戸の庶民は富士へ憧れたが、登拝が叶わないならせめて錦絵だ

「鎌倉江ノ嶋大山新板往来雙六」は「富嶽三十六景」と同時期、天保2（1831）年頃の作。日本橋を振り出しに、神奈川県内を巡り日本橋に戻るというもの。実際、当時の人々にとって馴染み深い観光コースだったのだろう（国立国会図書館蔵）



けども、というところだった。神奈川は、大山や江の島の弁財天など人気参詣地があり、富士よりも訪れやすかった。江戸っ子にとって馴染み深い場所だったのだ。

北斎はまさに、そのような神奈川各所を訪ね回る双六も描いている。「鎌倉江ノ嶋大山新板往来雙六」というもので、北斎が描いた現存する唯一の双六である。大山や江の島をはじめ、藤沢や戸塚、川崎、鶴見などの

ほか、長津田や伊勢原、厚木、愛甲などもコマとなっている。特に多い場所が鎌倉だ。雪ノ下や巨福呂坂、建長寺や円覚寺、大仏などだが、ただ、大仏の姿が若干違っている。

旅の絵師北斎も、大仏を見ていなかったようにも思われるが、それだけ鎌倉の大仏は謎めいていたということかもしれない。当時の人々がこの双六で、ワイワイいながら神奈川巡りをする様子を想像すると微笑ましい。

大山詣りの水垢離の様子を描いた北斎「諸國瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」(神奈川県立歴史博物館蔵)。大山詣りは、帰りに江の島に寄っても数日ほど。箱根の関所も通る必要がなく気軽に旅ができた。



「富嶽三十六景」の一つ「相州江の嶋」(神奈川県立歴史博物館蔵)。かつて、江の島では干潮時に現れた砂嘴を歩いて渡った。いまは橋が架かるが、参道が島の中に続く様子はいままも変わらない。

